

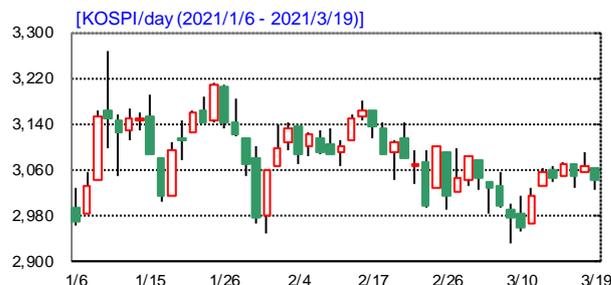


## 【韓国】 総合指数は週間で0.5%安と3週ぶり反落、今週は底堅く推移か

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.5%安と3週ぶりに反落。週を通じて狭いレンジでもみ合う展開で、1日ごとに上下を繰り返す方向感を欠いた相場となった。米長期金利の上昇に対する懸念から割高感の強い銘柄が売られた半面、米金融当局が緩和姿勢を維持するとの見方から、心理的節目の3000ポイントに迫る水準では下げ渋った。週半ばまでは米FOMCの結果待ちムードが強かった。1週間を振り返ると15日は3営業日ぶりに小反落。16日は反発し、3日以来ほぼ2週間ぶりの高値で引けた。17日は下げたものの、18日はFOMCの結果を受けて早期の量的緩和縮小への懸念が後退して反発。19日は反落した。今週は3000ポイントをめどに底堅く推移か。ただ、米国と中国の対立が先鋭化すれば、運用リスクを取りにくくなりそうだ。

### ▼指数チャート



## 【ロシア】 RTS 指数は3.0%安と3週ぶり反落、今週も制裁懸念が上値圧迫か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で3.0%安と3週ぶりに大幅反落。バイデン米大統領が対ロシア経済制裁の可能性に言及したことが嫌気された。海外株高が好感され、指数は16日に1555.74ドルと昨年2月以来の高値を付けたが、17日にバイデン大統領が昨年の大統領選を巡り、トランプ氏が有利になるよう干渉したとして対ロ経済制裁の可能性に触れ、株式、通貨、債券安が強まった。指数は17日に前日比3.8%安と急落すると、原油安やロシア中銀の利上げも重しとなり、19日まで3日続落。3月5日以来の水準に押し戻された。個別ではノバテックが6.8%安、スルグトネフテガスが50.7%安、ノリリスク・ニッケルが4.5%安、ルクオイルが4.4%安となり、指数を押し下げた。今週も米国による経済制裁懸念が上値を圧迫するか。

### ▼指数チャート



## 【ベトナム】 ベトナム指数は1.1%高と3週続伸、今週は過去最高値接近で警戒感

も

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.1%高と3週続伸。海外投資家の売りが続いたものの、金融株が軒並み上昇し、指数は2018年4月に付けた過去最高値に迫った。週前半は海外投資家の売りが続き、指数は上下にもみ合ったが、その後は世界的な長期金利上昇を背景に金融株が買われ、指数を押し上げた。VN 指数は18日に1200.94ポイントまで上昇し、2018年4月11日に付けた過去最高値の1202.46ポイントに迫った。19日は小幅に反落したものの、1月15日以来の高値水準となる1194.05ポイントで週の取引を終了した。個別では、ベトインバンクが6.6%高、テクコムバンクが4.9%高、ベトナム投資開発銀行が3.8%高、軍隊商業銀行が3.4%高と金融株が軒並み大幅高となった。今週は過去最高値への接近で高値警戒感が強まるか。

### ▼指数チャート





## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.03%安、中央銀行が政策金利の据え置きを決定**

ジャカルタ総合指数は週間で 0.03%安と小幅ながら 7 週ぶりに反落。週後半に買い戻されたが補えなかった。週初の 15 日は、2 月の貿易統計がおおむね堅調だったものの米長期金利の上昇が嫌気され、指数は 3 営業日ぶりに反落。17 日は中央銀行の定例会合を翌日に控えた様子見で売り優勢の展開が続き、終値で 4 営業日ぶりに 6300 ポイントを割り込んだ。ただ、18 日は政策金利が市場予想通り 3.50%に据え置かれたことを受けて金融株が買われ、指数は前日比 1.1%高と 4 日ぶりに反発。19 日は引け際の上昇が奏功し、続伸して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が指数を左右しそうだ。

### ▼指数チャート

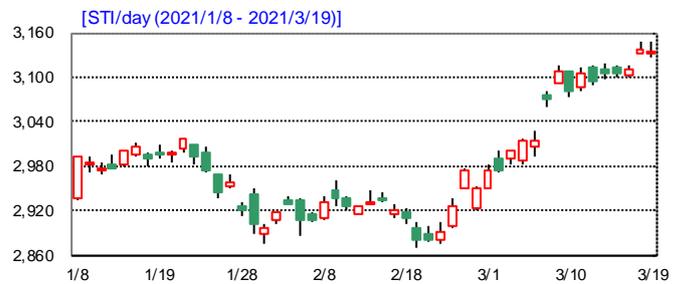


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.3%高、18 日に終値で 1 年 1 カ月ぶりの高値更新**

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.3%高と 4 週続伸。おおむね堅調な値動きだった。週初の 15 日は、シンガポールとオーストラリアが隔離期間を設けない相互渡航の可能性を協議していると報じられた効果でシンガポール航空株が買われ、指数は反発。その後は 17 日まで小幅な値動きが続いたが、18 日は前日の NY ダウと S&P500 指数が過去最高値を更新した流れで上値を広げ、終値ベースで約 1 年 1 カ月ぶりの高値を付けた。ただ、19 日は小幅ながら 3 日ぶりに反落して引けている。今週は 23 日に 2 月の CPI、26 日に鉱工業生産が発表される予定となっており、内容次第で株式相場の追い風になりそうだ。

### ▼指数チャート

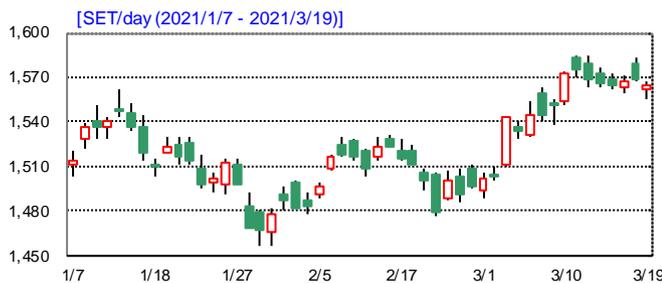


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.3%安、今週は 24 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催**

SET 指数は週間で 0.3%安と 3 週ぶりに反落。週末の下落が響いた。週前半は米 FOMC の開催を目前に控えた様子見で売られ、16 日まで 3 営業日続落。一方、17 日に反発すると、18 日は FOMC 後の声明を受けて景気回復への期待が高まり、前日の NY ダウの終値が 3 万 3000 ドル台に到達した流れを引き継ぎ続伸した。ただ、19 日は米長期金利の急上昇と原油価格の下落が嫌気され、3 日ぶりに反落して引けている。今週は 24 日に 2 月の貿易統計（通関ベース）、25 日に鉱工業生産が発表されるほか、24 日には中央銀行が定例会合を開催する予定。政策金利は 0.5%に据え置かれるとの見方が優勢となっている。

### ▼指数チャート

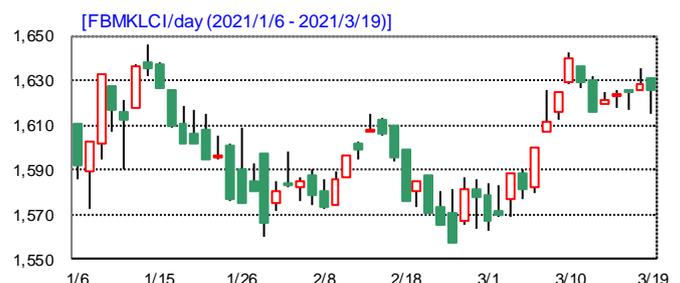


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.6%高、200 億リンギの景気刺激策を好感**

クアラルンプール総合指数は週間で 0.6%高と 3 週続伸。小幅なレンジでもみ合いながら、徐々に上値を広げた。週初の 15 日に 3 営業日ぶりに反発すると、16 日はアンワル元副首相が突然の記者会見開催を発表したことで、政局に対する不安感が広がったものの、終値では小幅に続伸。18 日は米国株の上昇に加え、前日の取引終了後にムヒディン首相が 200 億リンギ規模の景気刺激策を発表した効果で買い優勢の展開が続いたが、19 日は前日の NY ダウが下落した流れを引き継ぎ、5 日ぶりに反落して取引を終えている。今週は 24 日に 2 月の CPI が発表される予定で、1 年ぶりに前年同月の水準を上回るかが焦点。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。